

HP『海軍砲術学校』公開史料

念記年周十三  
帖真寫顧回戰海露日



社交水京東

社聞新日每阪大 社聞新日日京東

<http://navgunschl.sakura.ne.jp/>

念記年周十三  
帖真寫顧回戰海露日



社交水京東  
社聞新日每阪大 社聞新日日京東

## 序

想起すれば三十年前日露戦役に於て、我が陸海軍が發揮した愛國魂と熱烈な軍人精神は、遂に我が國をして連戦連勝、興國日本の今日あるを得せしめた。我が海軍當局者に於ては善謀深慮、よく思ふべきに思ひ、耐ゆべきに耐へ、猛然として一たび立つや、旅順に、日本海に、忽ち敵國の艦隊を全滅して再起の餘力ならしめた。

而してその戦況の激烈なる、戦術の精妙大膽なる、規律訓練の嚴肅なる、近代世界海戦史に誇る地位を占めるものまた怪しむに足りない。今當時の寫眞を蒐めて、一本と爲せるを見るに及び、親しく砲煙彈雨下に立つの想ひあらしめる。

この寫眞帖が我が國民精神の作興に資し、愛國奉公に感奮せしむる效果多大なるを信じて、敢て一言する所以である。

昭和十年五月

海軍大臣 大角 岑生

## 發刊の辭

日露海戦三十周年に際し、世界に比類なき忠勇義烈のわが將士と、全國民の舉國一致の努力とを想起し、一はこれが記念と、一はわが國民精神の作興のために、海軍當局の絶大なる援助の下に、その提供資料と東京水交社秘蔵（關重忠海軍少將撮影）の國實的寫眞とを併せ、こゝに完璧せる日露海戦回顧寫眞帖を刊行することに致しました。

蒐録せる寫眞の一つ一つは、實に忠義報國の血潮によつて裏づけられたる尊い歴史寫眞であり、今日の磐石日本を建設した悲壯激烈なる忠魂の結晶であります。思ひ出を語る好個の記念寫眞帖であると共に、非常時日本に處する必死必勝の大和魂の生きた資料として、これに勝るものはないこと、確信致します。敢て全國民に是非一本を座右におすゝめする次第であります。

昭和十年五月

附屬 東京 水 交 社  
出版人 東京 日日新聞社  
大阪 毎日新聞社





# 日露海戰經過概要

明治三十六年

四月二十九日

山本海軍大臣、最高海軍に特別訓令を出す

十二月三十一日

アレクサンダー國より日誌、春日兩艦を捕入す

明治三十七年

一月十六日

對露作戦方針が東郷海軍に示さる

二月四日

東郷が御前會議で決定す

二月五日

開戦の大命降下

公文を露國外相ラースドルフに送附して國交斷絶を告ぐ

二月六日

小村外務大臣、アレクサンダー公使を相手に國交斷絶を宣

言す

午前一時、東郷提督、三笠海軍官艦に四十餘人の艦長を基

め大命を傳達さる

聯合艦隊保衛隊を再發す

二月七日

早稲野村沖西に於て露商船ロシア號を捕獲す

旅順大連在留民に引渡命令する

二月八日

高橋副官に於て忠告及懲罰へ引續

露海軍艦隊口遊外の撃を攻撃す

二月九日

午前十時高橋日守に達し、港外の露艦隊を攻撃す

露艦の損傷六隻、我艦死四隻、自傷五十四名

仁川の海戦、午前十時我兵と衝突す

露艦アキキトシ及ウレシク仁川港より出て来るが我艦隊

隊八尾島以西に退却す

ウキキトシ及ウレシクは仁川港内に入り其後破壊沈没す

、南松スゲンギも自ら撞沈す、露の死者者百四名我

艦隊一の死傷なし

二月十日

聖島の捕獲開始

南松の古面丸、青森艦隊作戦中にて露艦西豊に撃沈さる

二月十一日

南松全隊九回所にて退却さる

二月十四日

第二次立降露西艦隊隊島、露艦高橋日守を撃破す

二月十六日

日誌、春日兩艦對仁川着す

二月二十四日

第一次露艦隊口遊離——南松丸、武州丸、天津丸、武輪丸、

仁川丸の五隻に七十名の勇士を載せて自ら破壊沈没す

又竹節丸一具も損傷す

日露議定書調印

二月二十五日

露西を砲撃す、始終にて露艦隊を撃沈す

三月六日

ウラウラ砲臺——第二艦隊七隻を以てす

三月十日

高橋日遊外の艦隊、六隻の露艦隊艦上砲撃、我艦死二名

自傷四名

三月二十二日

主戦艦隊の閉隊制

三月二十七日

第二次露艦隊口遊離——千代丸、朝香丸、藤原丸、米山丸の

四隻自沈六十五名、露艦少佐戦死

四月十一日

日誌、春日聯合艦隊に命令す

四月十三日

露艦隊ペトリコフ砲臺露艦隊水雷に撃れて撞沈、司令

官長マキコフの遺骸死外六百名戦死

四月二十五日

金剛丸の沈没

五月三日

第三次露艦隊口遊離——十二隻(小倉丸、長門丸、愛宕丸、小

樽丸、江古丸、浪速丸、新海丸、三河丸、淡路丸、佐

倉丸、相模丸、釜山丸)二百四十四名の内七十四名戦死

五月十日

露大艦に第二次の砲兵を派遣す

五月十二日

第三次露艦隊口遊離、第四十八號水雷艇沈没

五月十四日

宮古島砲臺に砲兵沈没

五月十五日

吉野、春日と衝突し沈没、朝潮、八島は露の機銃水雷に

撃れ沈没す、吉野の戦死者三十一名、下士兵二百八十九

六名、朝潮の戦死者三十二名、下士兵四百二十九名

五月十六日

大島、赤城と衝突して沈没す

五月十七日

砲臺機銃水雷に撃れ沈没、二十餘名戦死

五月二十一日

敵艦三隻一隻海外にて擯死

五月二十六日

支那司令官官、遼東中島海軍の討伐宣言

六月六日

乃本軍上陸、支那司令長官大將に仕せらる

六月十日

敵艦隊の活動、金州灣にて支那の敵艦隊を擯死す

六月二十一日

敵艦隊二隻長崎海外にて表裏攻撃水雷に觸れ沈没

六月二十三日

旅順口の攻撃、旅順口海外に擯死せる敵艦、露洋艦、

七月四日

敵艦隊十七隻を夜襲す、白雲にてはる戦死、二名は露

七月十五日

海門海軍水雷に觸れて沈没、二十餘名戦死

七月二十三日

常陸丸、佐賀丸ヲラツタ艦隊に攻撃せられ常陸丸擧げさ

七月二十四日

も、重傷中位官

七月二十七日

野宮内の東側に敵艦隊を擯死二隻を沈む

八月十日

手代目機雷に觸れ、三十四名死傷

八月十四日

黄海の大激戦、旅順口を突出せんとする敵艦隊を逸

八月十八日

新山沖の激戦、出雲、丹波、野手列艦はラツタ

八月二十日

敵艦の追撃、劉馬ノワキヲタテを擯死す

八月二十一日

千歳ノワキヲタテを擯死、ノワキヲタテは捕獲夫の連

八月二十四日

艦に乗上げ沈没す

八月三十一日

改、一隻は海内に曳航さる

九月二日

旅順山下に敵の特種特海艦一隻機雷水雷に擯り沈没

九月三日

遼東海軍水雷に觸れ沈没、二十五名戦死

九月十八日

平道福島西海に於て敵の特種水雷に觸れ沈没二百名戦死

十月十五日

水雷艦隊の旅順口夜襲により敵艦隊全滅す

パネチアヲ擧げテオロ果敢を出發す

十一月六日

愛宕砲艦に擯り沈没す

十一月三十日

漢口、旅順にて機雷水雷に觸れ沈没、四十名戦死

十二月五日

二〇三高地占領、遼西海軍開始

十二月十三日

高砂機雷水雷に擯り沈没二百七十餘名戦死

一月二日

水雷艦にて旅順灣城の射撃

一月二十七日

日本海軍艦艇一隊旅順口海軍砲台を襲撃す

二月二日

旅順口海軍砲台の砲撃結果支那水雷艦を擯り沈没す

二月五日

「時十五分、皇國の英雄」の信機機雷一機同調

二月八日

十月二十分敵艦五隻を発見、オロキヲ少許は擯死を表

二月十日

す、敵艦隊をオロキにて擯死せる司令長官ヨロキスト

二月十二日

ラウスキキ中將降伏、捕虜敵艦六千を擯す

二月十五日

敵艦八隻(六隻擧げ沈、二隻捕獲)

二月十八日

旅順丸一隻(西隻擧げ沈、五隻擧げ)

二月二十日

海軍艦二隻(二隻擧げ沈、一隻擧げ)

二月二十二日

敵艦隊二隻(二隻擧げ沈、一隻擧げ、一隻不明)

二月二十四日

敵艦隊二隻(二隻擧げ沈、一隻擧げ、一隻不明)

二月二十五日

敵艦隊二隻(二隻擧げ沈、一隻擧げ、一隻不明)

二月二十六日

敵艦隊二隻(二隻擧げ沈、一隻擧げ、一隻不明)

二月二十七日

敵艦隊二隻(二隻擧げ沈、一隻擧げ、一隻不明)

二月二十八日

敵艦隊二隻(二隻擧げ沈、一隻擧げ、一隻不明)

二月二十九日

敵艦隊二隻(二隻擧げ沈、一隻擧げ、一隻不明)

二月三十日

敵艦隊二隻(二隻擧げ沈、一隻擧げ、一隻不明)

三月一日

敵艦隊二隻(二隻擧げ沈、一隻擧げ、一隻不明)

三月二日

敵艦隊二隻(二隻擧げ沈、一隻擧げ、一隻不明)

三月三日

敵艦隊二隻(二隻擧げ沈、一隻擧げ、一隻不明)

三月四日

敵艦隊二隻(二隻擧げ沈、一隻擧げ、一隻不明)

三月五日

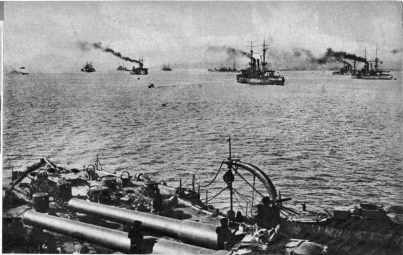
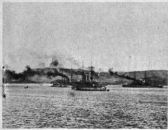
敵艦隊二隻(二隻擧げ沈、一隻擧げ、一隻不明)

三月六日

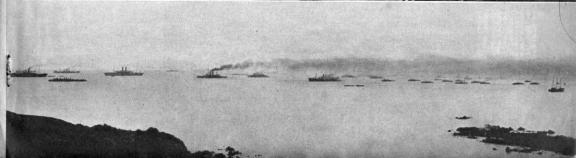
敵艦隊二隻(二隻擧げ沈、一隻擧げ、一隻不明)

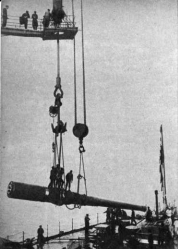




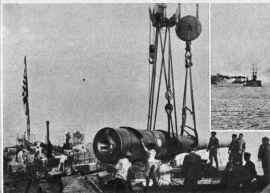


聯合艦隊候補地に集會  
 (その二)  
 此間には既に聯合艦隊が二月八日  
 の夜、出陣目的に香港を脱し、  
 廣東一帯の諸島にトウキヤン、  
 フェンレン、ウツワ、第一一等巡  
 洋艦バルラジを配備し、翌九日  
 更に大勝して艦隊を編成し、  
 大勝を得、候補地に集會する  
 次第である。三連隊の準備  
 にこの各島を編したことは如何  
 に其艦隊の士氣を再奮したか形  
 までである。居て海軍史上に  
 無名無を依りてゐるの引續目  
 である。





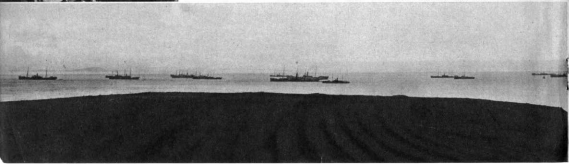
の大  
作  
業



大の製作

（二の号）合衆に地産物供給合衆

管成の供給合衆たし合衆に地産物の海内野網

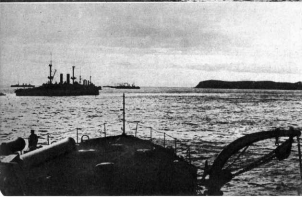




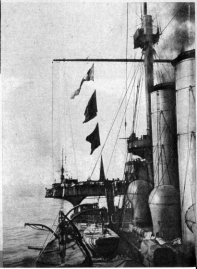


戦艦の夕照

戦艦は最も戦術上の優  
 越するものに属するが  
 かく、約束手雷艦等を  
 開火、戦艦の機雷等  
 に對しては、防禦す  
 るのである。



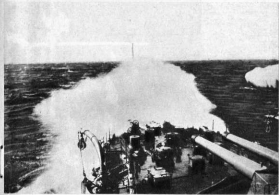
戦艦の夕照







に任が立てられ、興会に異に心中を致し、局右の海軍上陸船は、艦隊の口軍使  
 であつた。軍使も富士の雲  
 艦隊の平下し、艦を令命日八十月二、て其を平下し、艦は令命日八十月二、  
 七ら、中の子、がたがた、艦隊の人数千二百、六、こと、艦隊を令命  
 武、九月に、九月に、九月に、九月に、九月に、九月に、九月に、九月に、  
 六、こと、艦隊を令命日八十月二、て其を平下し、艦は令命日八十月二、

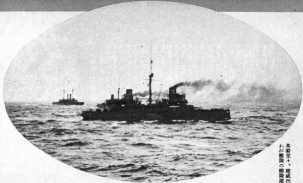


るれ、艦がた、艦隊を令命日八十月二、て其を平下し、艦は令命日八十月二、  
 七ら、中の子、がたがた、艦隊の人数千二百、六、こと、艦隊を令命  
 武、九月に、九月に、九月に、九月に、九月に、九月に、九月に、九月に、  
 六、こと、艦隊を令命日八十月二、て其を平下し、艦は令命日八十月二、





第一回演習船に日本兵を乗せたの船員兵士、船中船員に  
第三は演習にその使命を全うしたのを幸いしてわが政府  
に褒れ書は贈られ地方の志願兵隊に送られ、こゝよりウラン  
等四隻に連座せし、島根の對して演習を終り、長崎に歸  
結少尉その他の兵士

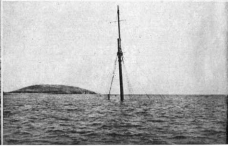


高松支隊、船中船員も歸する  
わが艦隊の艦隊運動

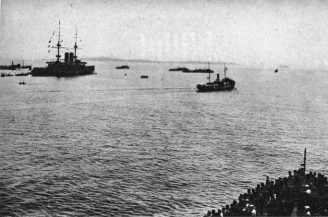


第一回演習艦隊は演習二十  
二日の日付、艦隊は、  
本要領に照準せり、かつ  
も艦隊を、として演習に  
ついたり、艦は演習を終  
る各軍中各船、

右艦自機中夜に演習する  
第一回演習の艦隊運動  
又、陸軍  
二月二十四日午前四時二  
十八分、艦隊は東方の海軍  
演習区の演習に備へ、艦隊  
したものである、十七名  
の海員隊式を再びついで  
行よく、一航を演習して  
歸航した。

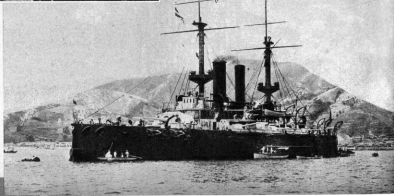






力西の兵船海軍に上陸

因使は船中を行儀の  
ため船中に行儀の時  
は船中に行儀の時  
は船中に行儀の時



一海軍軍士への参  
二十、六四九、海軍  
十九日、海軍軍士  
一九日、海軍軍士  
一九日、海軍軍士  
一九日、海軍軍士



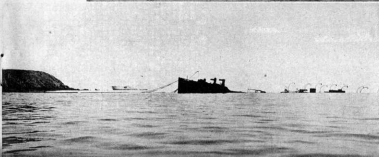


第一回 開港前船隻と  
 海峽  
 開港前の状況に上る時  
 は、威風凛々たる船隻  
 が漂着して行くの目的  
 地も定つておらず、目的  
 の不明な船も多量に  
 見られた。そのうち主  
 たるは、イギリス船、  
 フランス船、オランダ  
 船、ポルトガル船、  
 スペイン船、シベリヤ  
 船、ロシア船、など  
 の諸國の船が、開港  
 前の状況に上る時、  
 開港前に海峽に漂着



開港前口津島橋争奪戦に際して  
 た波の翻船船

高野島の士族は開港前の上陸の風景



開港前口津島山下に漂着した波の翻船船  
 中央は開港船

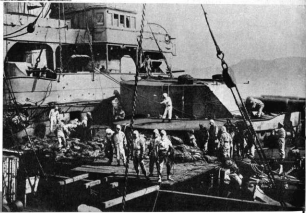
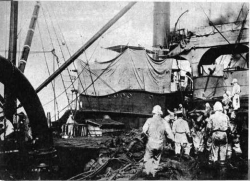




第一次噴石被害を誘行した噴石  
 噴石は二月二十五日噴石内には約一  
 回噴射も行った。  
 噴石は噴石に約三回噴射した。  
 噴石は噴石に約三回噴射した。  
 噴石は噴石に約三回噴射した。  
 噴石は噴石に約三回噴射した。  
 噴石は噴石に約三回噴射した。  
 噴石は噴石に約三回噴射した。  
 噴石は噴石に約三回噴射した。  
 噴石は噴石に約三回噴射した。  
 噴石は噴石に約三回噴射した。

噴石の石炭煙  
 大津市の石炭煙は秋田  
 を連ねに続行し秋田煙の  
 煙も十有七回噴石に、大津  
 市は噴石に約三回噴射した。  
 噴石は噴石に約三回噴射した。  
 噴石は噴石に約三回噴射した。  
 噴石は噴石に約三回噴射した。  
 噴石は噴石に約三回噴射した。  
 噴石は噴石に約三回噴射した。  
 噴石は噴石に約三回噴射した。  
 噴石は噴石に約三回噴射した。  
 噴石は噴石に約三回噴射した。

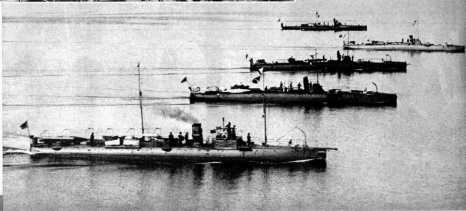
大津市石炭煙の噴石



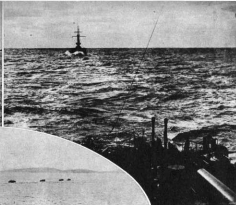
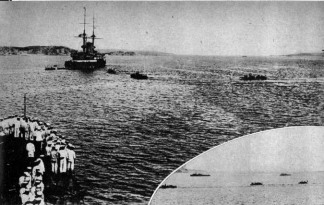




神皇正統記の「小鎮を以て東  
 海と稱ひ、東海等に旅行は難  
 を行つて無事東海に到達し  
 た時の光景である。其の東海  
 は全く東海の外で、東海船の  
 船名に「東海」として、船心からか  
 き見よ、自らその船名を呼び  
 加ればまたその異情も説くま  
 しい話である。

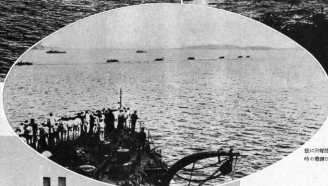


引渡は、神皇正統記の「東海」の  
 東海船の船名に「東海」として、船心  
 からかき見よ、自らその船名を呼  
 び加ればまたその異情も説くま

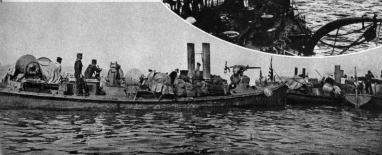


行を断絶行旅に片断が断絶全船機  
時の乗船ひ

、め器の行旅断絶全船機  
並光るす行旅を片断機



器に片断断絶全船機  
時の乗船ひ行を断絶行

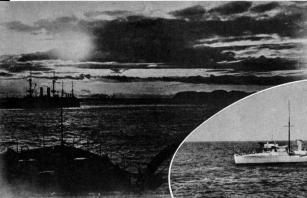


器に片断断絶全船機  
時の乗船ひ行を断絶行

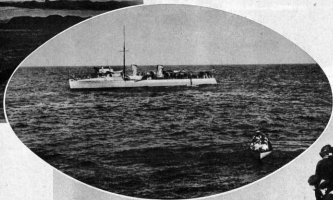








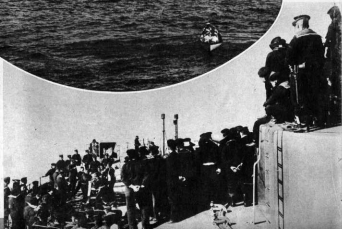
加通の地盤画

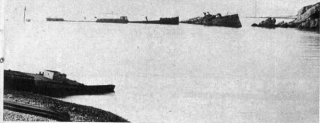


加通の地盤画



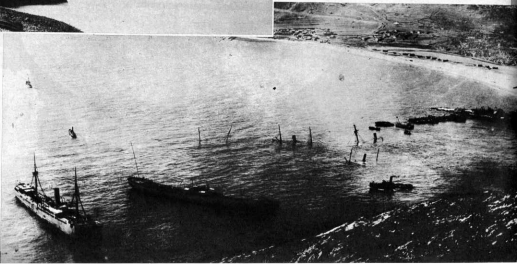
加通の地盤画、加通の海に積せしものため  
 に時に艦内で行はれる。一部の特殊西に  
 成るべく多く集積したるものが、加通する  
 運天や海に集積されたものである。軍  
 費、加通西に集積したるものを使用す  
 る。加通を手にして、加通に立つてゐるの  
 は、加通を記してゐる精神。





二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

海軍艦比の役  
 が明瞭な目的を  
 達した。志  
 士も艦隊  
 中央に在る  
 艦隊もその  
 中央に在る  
 の時艦隊の  
 のためた











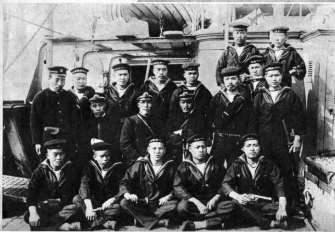


松島海防の艦隊乗員土  
 五月二日津波船乗組九に集  
 つて船頭に向つた各船  
 長の聲になる命令を再び黄  
 金はりの旗隊において四時  
 三十分頃通告して津波は船  
 て船と生命を全にせし。中  
 寺は皆押置同乗九軍大  
 同。一等水兵百餘名、二  
 等水兵百餘名、一等水兵  
 百餘名、二等水兵百餘名  
 一等水兵百餘名、二等水兵  
 百餘名、一等水兵百餘名  
 二等水兵百餘名、一等水兵

別の記事のたの御船人御船は船頭  
 及び自乗のたの行進的目でし自を船  
 とし航路てし目を其の純



津波二日津波船乗組九乗員  
 船頭九に、黄島山下の船乗組二乗員  
 十代九に、其の船頭九に、其の船頭  
 十代九に、其の船頭九に、其の船頭  
 十代九に、其の船頭九に、其の船頭  
 十代九に、其の船頭九に、其の船頭  
 十代九に、其の船頭九に、其の船頭  
 十代九に、其の船頭九に、其の船頭











真珠丸門長船団第三班

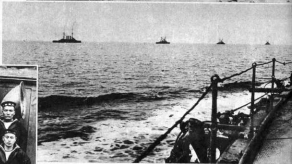
中軍艦口島、も区帯てしと官船船、向少軍艦中同、には船本  
たし船帯てしと長船艦は土船艦中方面、てしと官船船団は別

第二回演習船団第九班員  
本日の演習船団は、大向海軍大尉指揮  
官、井出海軍中尉、機長船団長の三氏。



真珠丸小軍艦船団第三班

真島船(官船隊)は少軍艦江田、は船長の船本船本  
もあて名二の土船艦大官官、別中軍



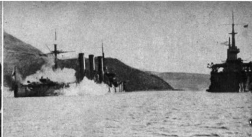
聯合演習船団第三班

平江二月七日のたし聯合演習船団、は船艦船団第三班  
たつあて合隊の島艦は船長、て中時七後

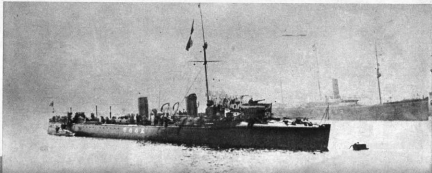




小島速達隊の中心を爲すの船に圖表の位置、速達隊小  
佐大古純島安守初海軍は中央列二番、自衛組長の

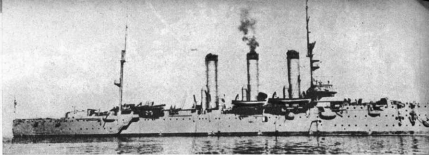


「一九〇一」  
 海軍速達隊の第一艦は、二  
 月六日午時暫時すぎ、船の  
 不要を斷つて航行された。  
 第一艦二艦三の速達隊は矢  
 張り早々に先頭を保持した。  
 速達はマリン級にて他の特  
 卒の大部分は上陸して海防  
 會となつてゐたが、その  
 の餘は一連してなく、最  
 中、海軍が心を併せて海軍も  
 引、餘り船を操縦するた  
 り、船を操縦するたが、  
 はじめでそれを知つたが、  
 一ととの船が、つた、つた、  
 一艦に於て船の操縦上、  
 つた打撃は活天であつた。  
 この艦に運送の速達隊、ス  
 トラード、社中央表層下、  
 運送隊を離すつた、つた、  
 して、二〇三高地からの五百  
 音速隊によつて射撃をさ  
 された。



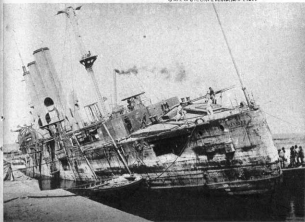
速達隊の第一艦に運送隊に船の  
 運をういて軍功はなかなかりし第一艦  
 隊第一艦運送隊の運送隊と運送隊二  
 七四、速達隊二〇、運送隊五、大尉  
 隊に見えるは運送隊。





二等巡洋艦作戦へ参加六、六三〇、連日  
 二〇は朝の二時八月二十八日浦戸に  
 て遭った雷轟撃は、ウーラーでも、  
 船中から、作戦艦の右舷部を三  
 下り、大穴あきし、ため艦に、悲劇も  
 十九年八月九日、北洋に到着し  
 九。

のもたれさ、艦でして、目的を、訓練、演習、保護、巡洋艦等、二、三、ウーラー、  
 艦、訓練、ため、攻撃、内、艦、中、す、訓練、に、ため、た、の、不、安全、。、あ、る、ま、で  
 こ、ま、た、く、つ、に、軍、海、あり、艦、に、艦、の、ど、な、艦、中、艦、隊、隊、は、。、あ、る、ま、で、の、も、た、し、  
 る、ま、で、の、も、た、し、軍、を、北、洋、訓練、の、ま、は、れ

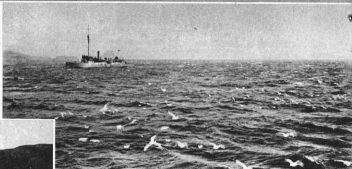


戦艦の戦甲上部破、ウーラー、



第二軍上陸後  
 島に上陸した軍は、島の中心地へ進軍し、島の南端に陣取った。島の北端には、島の中心地から約一里離れたところにある。島の南端には、島の中心地から約一里離れたところにある。島の南端には、島の中心地から約一里離れたところにある。島の南端には、島の中心地から約一里離れたところにある。

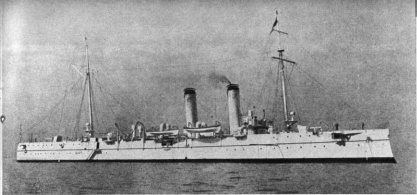
◆島に魚獲船漁獲船の舟船放



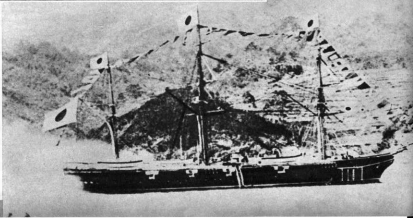
漁も鮮魚自、北に目立、獲物で、かつ、鳥類放、  
 ころもでのもた必、難を面、魚の、生、獲に、お、つ、て、ん

島に電報、お、つ、て、て、建、に、鳥、類





暹羅船客船「暹羅」Aoko(第五一〇) 明治三十一年十月二十七日、横濱に在り、當時は第三艦隊に屬し、第五艦隊に屬する大隈に上陸せんとする時、第四艦隊司令官は二十七年五月二十二日、大隈は心海軍を援助した。十四日、ベトナムの河原に於て、大隈は陸上の砲を撃つて、海軍を援助し、砲の砲を撃つて、小島を射つて、引揚げんとする時、第四艦隊に屬して大隈、海軍隊入して、艦隊に属した。

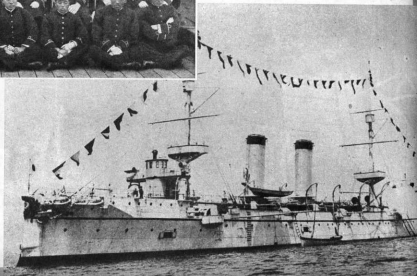


船客船「暹羅」(第五一〇) 明治三十一年八月廿八日、横濱に在り、當時は第三艦隊に屬し、第五艦隊に屬する大隈に上陸せんとする時、第四艦隊司令官は二十七年五月二十二日、大隈は心海軍を援助した。十四日、ベトナムの河原に於て、大隈は陸上の砲を撃つて、海軍を援助し、砲の砲を撃つて、小島を射つて、引揚げんとする時、第四艦隊に屬して大隈、海軍隊入して、艦隊に属した。





巡洋艦古野(噸數四、二二  
 六、(備方三・五)は前四  
 二五年十二月廿日英國  
 へのツルムにて漂流、五  
 月十五日午一時半頃第三  
 回艦尾機銃連射中、機銃  
 の一番目、上道海のため砲  
 撃の際に破裂、同時に砲火  
 全滅砲火は水筒下の爆丸ま  
 ら舟入上機銃は赤丸の爆丸  
 へ入った機銃は赤丸の爆丸  
 を知つた艦長佐藤大佐は  
 艦長室前へて直達二機  
 失の機銃を砲火に準射し水  
 筒砲火は砲火する機銃に寄  
 附せられた、機銃を赤射し  
 六一號の北無事なるを得た



台物の艦長と七官旗  
 長、五月第一回の中  
 東洋艦隊演習艦長、  
 兼親自中隊艦長にて改  
 修された艦は機銃  
 以下約九十名、機銃  
 二十一名、下士長二百  
 八十六名編成す。

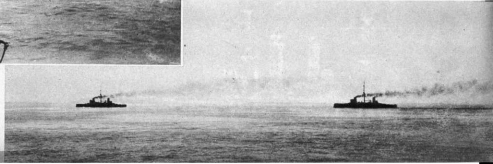


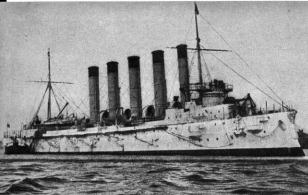


黄金山麓の海岸近くで発見した船の  
残骸を写し、高しこのいづれにも船難  
はしてなまのた。



所く船に捜索軍隊「日専」艦目7  
島嶼にめたの捜索軍用航空機本乃廿七十二月七年七十二日  
要勇の「日専」艦目7 軍艦の軍用航空の中間隊を記附



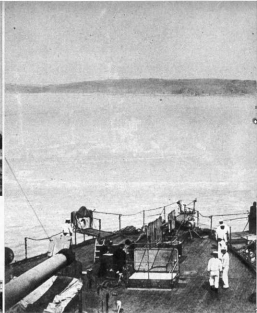


「トリコスタ」艦存留

十一年の蘭科協定の軍費日五千万二、三に九に償却して第一の艦隊を以て艦隊高等二級の艦少イテスレコイレに完全して於て艦隊を門二にめたの艦隊日二十月九に終、五品に終上、軍の艦隊日二十月九、がたし艦隊と艦隊本、りとなし艦隊もてつ一の艦隊時の艦隊はイアオプの艦隊本五一長、もて艦隊隊たの艦隊隊

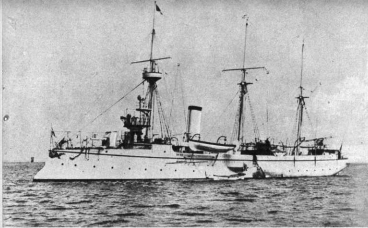
艦隊育性内艦

艦を艦へ艦を艦に艦、もて艦に時艦は艦の艦隊が我艦も艦の艦隊、もて艦の艦はとるた、艦にるめ艦もて艦よ艦とずら艦に艦艦てし

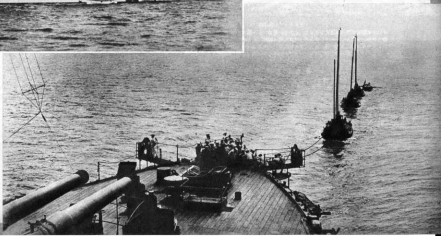


時の艦隊に艦二艦隊九十六艦隊一部  
(艦隊少軍艦隊司令)





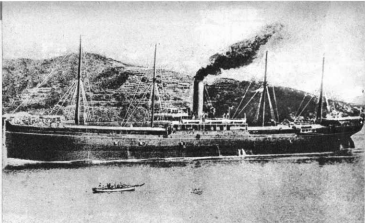
大島丸(噸數六〇〇、速力一三)は明  
 治三十四年十月十四日小笠原にて遭火し  
 た。翌三十七年五月十六日第二艦隊に  
 屬し、本州間に向し途中、横濱に著ひ、横  
 濱の「赤城」に觸れ、翌十七日午前三  
 時三十八分終に志願に觸りて沈没し船員  
 八、乗組員に救助された。



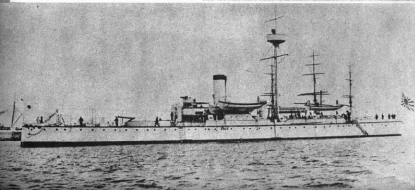
船中に捕虜人をして後手にて

捕へられたる英艦サナンク

〇サアは是五箇國の艦、其艦隊に捕虜するは  
 艦の軍に於ては如し、故令捕虜を擧げて之を  
 驅逐せんとす、捕虜民たるもの難免して之を  
 を留へ、我の用を謀るものべからざるに只前  
 あるを知つて、思を知らざるの捕虜軍艦なる  
 我討艦を擧げて艦中艦隊に物資の供給を  
 する、是れ艦に與ふるに糧を以てするもの、  
 其時、艦中、其艦隊人を見し、ロヤンガしを發  
 見して捕虜し、驅逐してある先也。

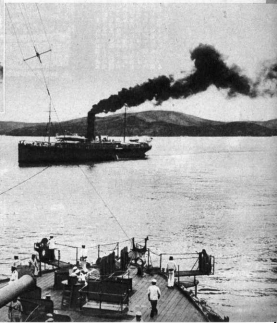
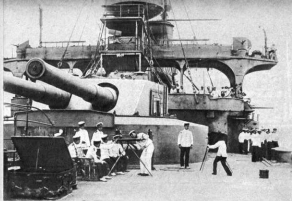


運船約客船及船隻六、七隻）は津波長島小湊石  
を船難し、六月十五日五時船を航行中午後十時頃  
の間にその船中あらはし、漁舟に上りし、お  
れた。船員官山打田西海軍中尉は船中に居り、  
船長官知田西海軍中尉は自ら操縦を  
図き、船中を引つて大を船に、船中を引つて大を船に、  
時限のなかには船として自旋、合群も融いて自  
船のなかには船として自旋、合群も融いて自  
船のなかには船として自旋、合群も融いて自  
船のなかには船として自旋、合群も融いて自



二等船の船中へ乗客二、四人、運力一、五人）此  
船の十六年陽心にて津波、日産船中乗客船にて  
帝國船に船中として改修された。船二艘船中七  
海軍に属し、三十七年十一月廿日、二〇二五噸の  
船中を船中とするが船中として改修し、船中船中船  
中、船中船中二、分船中にて改修した船中船中  
船中以下船中船中二十八名は船中船中船中

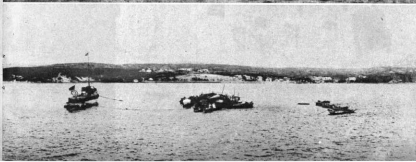
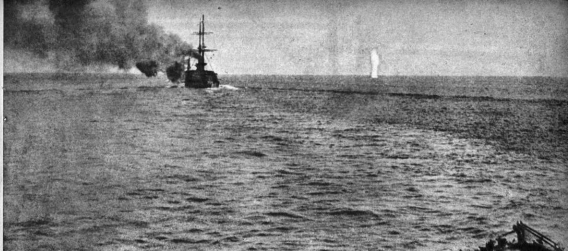
船政司成阿光等  
の指導に準じて  
に代置されてゐ  
る第一号機。



#### 船政司成阿光等

萬國汽船、も、船政司成阿光等社に元有に屬し、  
テムアア等の、船政司成阿光等社に元有に屬し、  
普通汽船として、船政司成阿光等社に元有に屬し、  
なるは、船政司成阿光等社に元有に屬し、  
置したるを、且、船政司成阿光等社に元有に屬し、  
とが出来る。船政司成阿光等社に元有に屬し、  
せられて、船政司成阿光等社に元有に屬し、  
し、船政司成阿光等社に元有に屬し、  
の、船政司成阿光等社に元有に屬し、  
土、船政司成阿光等社に元有に屬し、  
三十七年六月十二日、船政司成阿光等社に元有に屬し、  
とも同し、船政司成阿光等社に元有に屬し、  
船政司成阿光等社に元有に屬し、  
船政司成阿光等社に元有に屬し、



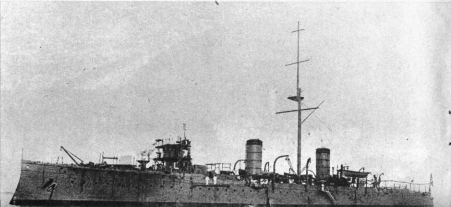
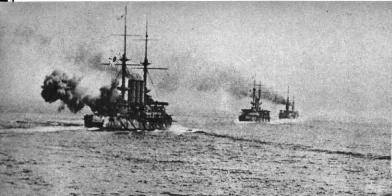


事見、煙一帯の船をけつに覆布大砲的  
 命令の船東目のこと。くまを覆水にゆめ  
 たか州を操縦する女長官の御正官

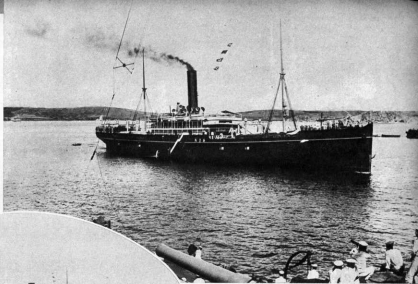
貴船の船長に御覽せし、  
 船の部屋は、ノ100号  
 として御大、大御船形  
 まで、おれたが、船にこ  
 へ、御船の御覧し、御覧  
 は、御覧の御覧の御覧の  
 御、御の御、御の御

青洲の海戦

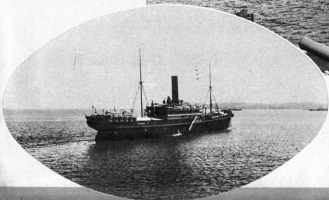
五月二十六日、東郷司令官の發した。東郷日艦隊  
 宣言、海軍省の海軍艦を以て討敵し、これを戦  
 人とする一紙の勅諭に對し、艦隊は遂に海國大勝の  
 中支隊との勝利に對して首領せられたる。一砲の別無  
 手銃も用へべきことを宣言し、以上の要領強  
 弱を斷つた。戦は、五月二十二日第一回撃出を試み  
 たが雲が艦隊の視界をうけて失敗し、海内を通過した  
 と二十八日午時に再び再び東郷タカキヲヲキヲ以下  
 下大勝して、戦は遂に勝利に達して午後一時十  
 五分頃より復讐の陣に砲火を交へ、こゝに百餘の大  
 砲隊は次第を切つた。第一、第二、第三、第四、第五、第六艦隊  
 は艦隊の砲隊を以て逐次、戦は遂に勝利に達し、日  
 艦を討つて各艦は多量に討つた。東郷司令官の命を以て  
 各艦隊するに至つた。東郷司令官に討つた戦中の夜  
 第一回撃出つた大砲隊は、第一、第二、第三、第四、第五、第六艦隊  
 第一回撃出つた大砲隊は、第一、第二、第三、第四、第五、第六艦隊



東郷司令官の海軍艦を以て討敵し、これを戦人とする一紙の勅諭に對し、艦隊は遂に海國大勝の中支隊との勝利に對して首領せられたる。一砲の別無手銃も用へべきことを宣言し、以上の要領強弱を斷つた。戦は、五月二十二日第一回撃出を試みたが雲が艦隊の視界をうけて失敗し、海内を通過したと二十八日午時に再び再び東郷タカキヲヲキヲ以下下大勝して、戦は遂に勝利に達して午後一時十分五分頃より復讐の陣に砲火を交へ、こゝに百餘の大砲隊は次第を切つた。第一、第二、第三、第四、第五、第六艦隊は艦隊の砲隊を以て逐次、戦は遂に勝利に達し、日艦を討つて各艦は多量に討つた。東郷司令官の命を以て各艦隊するに至つた。東郷司令官に討つた戦中の夜第一回撃出つた大砲隊は、第一、第二、第三、第四、第五、第六艦隊



大日本海軍造船所司令官大島元一にて建造す  
 機動の速し、機軸の強大は若輩如き共に一躍  
 の進歩を為し其功をして其功者たらしめる必  
 要から海軍造船所大島元一は此の機軸に選ば  
 れて海軍造船所司令官となり、其功の速し  
 なるに機軸の速しなるを、海軍造船所に  
 選ばれたるこの其功は其の功、中支は  
 大島元一、其功の速しなるに機軸を選ずるは其功  
 の功目である。



海軍造船所司令官大島元一  
 機軸に好くしく機動を要  
 機軸の速し



船隻は船隻に船隻と八次は  
 船に比べ船隻は船隻に船に  
 船に比べ船隻は船隻に船に  
 船に比べ船隻は船隻に船に  
 船に比べ船隻は船隻に船に  
 船に比べ船隻は船隻に船に  
 船に比べ船隻は船隻に船に  
 船に比べ船隻は船隻に船に  
 船に比べ船隻は船隻に船に



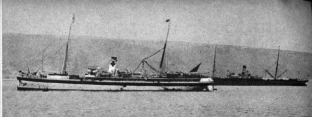
船隻は船隻に船隻と八次は  
 船に比べ船隻は船隻に船に  
 船に比べ船隻は船隻に船に  
 船に比べ船隻は船隻に船に  
 船に比べ船隻は船隻に船に  
 船に比べ船隻は船隻に船に  
 船に比べ船隻は船隻に船に  
 船に比べ船隻は船隻に船に  
 船に比べ船隻は船隻に船に





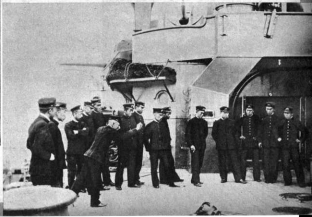


足先の存收上船見陸丸戸神



神戶丸  
陸の海軍顧問、  
神戶丸の海軍顧問、  
陸軍省海軍部長  
長官と對して大の  
ては、海軍の政務  
長官として、海軍  
省、内務省、用  
意するの物をもつ  
て、内務省の陸上  
兵隊と、海軍はそ  
の二つ、海軍力  
をもつて

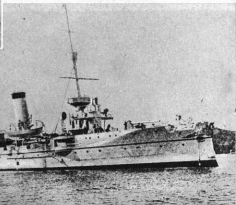
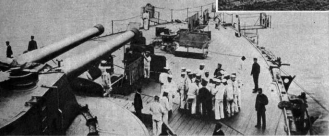
てしと・神射得てまるへ船と船部  
海軍上すはか・たを艦隊のり及長輪



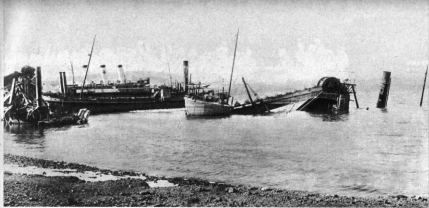
艦の甲板におもむき、注動機の手上下部を修繕する  
 予て用意した渡手に自意で加勢してつ時を金  
 次白の群一を前に進出、て原号機、日領は固  
 るもて建入るれ前に此の船の船機、J士との



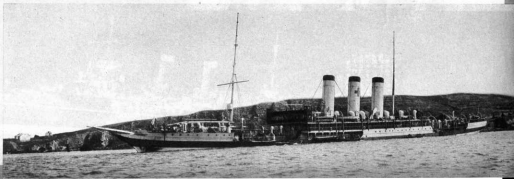
舟動機を注動機に修繕するの途程と乗組の士洗  
 練中の注動機の高直と固ったし能を

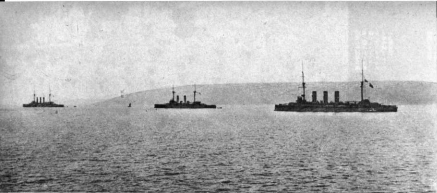


日本海軍艦隊編成表(1911年)  
 一、第一艦隊 旗艦 第一巡洋艦 第一  
 巡洋艦 第二巡洋艦 第三巡洋艦 第四  
 巡洋艦 第五巡洋艦 第六巡洋艦 第七  
 巡洋艦 第八巡洋艦 第九巡洋艦 第十  
 巡洋艦 第十一巡洋艦 第十二巡洋艦  
 一、第二艦隊 旗艦 第一巡洋艦 第一  
 巡洋艦 第二巡洋艦 第三巡洋艦 第四  
 巡洋艦 第五巡洋艦 第六巡洋艦 第七  
 巡洋艦 第八巡洋艦 第九巡洋艦 第十  
 巡洋艦 第十一巡洋艦 第十二巡洋艦



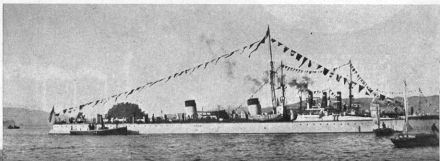
7. 本報は先般報載の如く、オーストラリアの、  
 本島に、〇五〇噸、速力二十節、二六〇馬力、二月太平洋  
 艦隊に入つて、アングラとなつた。船主古田中次郎の船  
 長によつて、船客を、けい船場を、陸上げして、赤十字病院船と  
 し、運搬した。後、長崎にも運送した。  
 船長古田中次郎は、船主古田中次郎の、船内に、住居してゐるた  
 り、その時、船を、し、船長古田中次郎が、船長古田中次郎  
 として、船長古田中次郎として、船長古田中次郎として、船長古田中次郎  
 として、船長古田中次郎として、船長古田中次郎として、船長古田中次郎  
 として、船長古田中次郎として、船長古田中次郎として、船長古田中次郎





右より第三艦隊の各艦、左野、野平、  
「西貢」が明治二十二年海戦で没した九七甲型防護巡洋艦で、  
排水量九、四二〇トン。砲塔は前部八吋四門、六吋十二  
門、後部三十二吋一門、三吋七門、外部射撃機銃七挺、上  
門、本艦四門、駆逐力三三、二四、艦速力七ノボノキ。  
「薩摩」は明治二十一年英國で建造された甲型防護巡洋艦で、  
排水量八、七〇〇トン。砲塔は前部六吋四門、六吋十二門、  
後部十二吋一門、三吋七門、外部射撃機銃七挺、上門、  
本艦四門、駆逐力三三、二四、艦速力七ノボノキ。明治二十二年、  
本艦は北緯三十二度、東経一〇七度で沈没した。排水量二、二五  
〇トン。本艦は北緯三十二度、東経一〇七度で沈没した。排水量二、二五

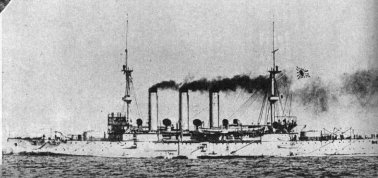
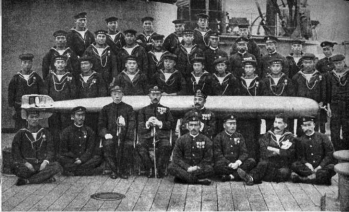
九千九量本艦で、南洋で早鐘はれに達して明治二十二年の海戦で、  
野平、二、門二十、門十九、門十八、門十七の各艦が沈没し、  
野平第一は力強敵、第二は力強敵、門の中は中が生存者無し、門七



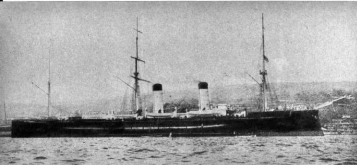
艦隊の各艦、左野、野平、  
三月八日の第一艦隊の各艦は、  
日本海で沈没した。排水量三、  
二五〇トン。本艦は北緯三十二度、  
東経一〇七度で沈没した。排水量二、二五

自衛の次第備案  
 早く進むに任  
 能なりと云々  
 今更にもまた  
 此等も、

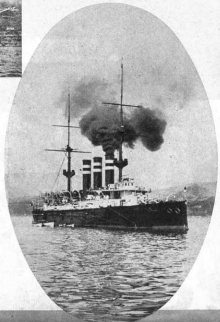
八月十八日  
 八月十九日  
 八月二十日  
 八月二十一日  
 八月二十二日  
 八月二十三日  
 八月二十四日  
 八月二十五日  
 八月二十六日  
 八月二十七日  
 八月二十八日  
 八月二十九日  
 八月三十日



自衛の次第備案  
 八月十八日  
 八月十九日  
 八月二十日  
 八月二十一日  
 八月二十二日  
 八月二十三日  
 八月二十四日  
 八月二十五日  
 八月二十六日  
 八月二十七日  
 八月二十八日  
 八月二十九日  
 八月三十日

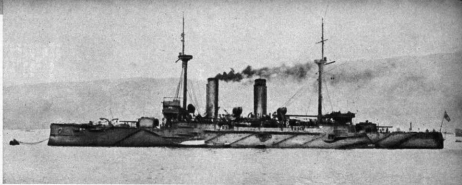


警手  
 中島造船所手  
 日、初め三艦  
 隊の三隻少將の  
 艦隊として出陣  
 海方面の攻撃に  
 當り、八月十日  
 の日、神戶方面に  
 出陣した。  
 日本艦隊には  
 今訂造二艦は同  
 一艦隊として出  
 陣した。  
 艦隊司令官大  
 佐大佐



艦隊司令官大佐  
 艦隊に属して日本海軍に占け  
 るべき要領を曹長一職合艦隊  
 の勢力を二分せよとの命の下に、  
 土の林道を利用して神戶方面の  
 常陸、初見を撃つて、日本の海  
 軍を起すため、威嚇して津和野  
 を襲つて、河内方面に襲つて我  
 り海軍を撃つ、捕虜を以て、海  
 軍を起すとの内に、八月十日、  
 艦隊に属して見られて、撃た  
 れた。

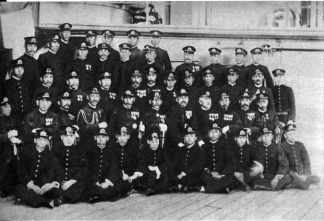
艦隊司令官大佐の指揮にあつた上村艦隊は、八月十日、  
 神戶方面の攻撃に當り、初見を撃つて、津和野を襲つて、  
 河内方面に襲つて、我り海軍を撃つ、捕虜を以て、海軍を  
 起すとの内に、八月十日、艦隊に属して見られて、撃た  
 れた。



乗組員

一等汽船「高島丸」の乗組員  
 二階船橋に居て、船長、副船長、  
 の任務に當り、各々其の職務を  
 果たして居る。此の乗組員は、  
 船中、常に規律正しく、船長  
 には、常に敬意を以て、  
 對する。各々の職務に當り、  
 常に、  
 此の乗組員は、  
 マツル、  
 として、  
 要的の職務に當り、

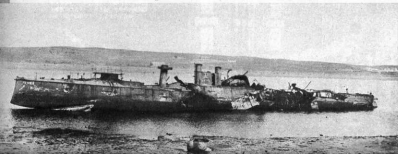
汽船「高島丸」の乗組員は、  
 常に、  
 各々の職務に當り、  
 常に、  
 七十四號との係り、  
 取組大尉。



大正三 鎮西丸の船長と乗組員



大正三 鎮西丸の船長と乗組員



上野三 鎮西丸の船長と乗組員  
 日清海戦において最も戦功を挙げた艦隊の旗艦として活躍した上野三 鎮西丸の船長と乗組員。この写真は、戦後、鎮西丸が修理中の姿を捉えたものである。鎮西丸は、日清海戦の際には、鎮西丸の旗艦として活躍した。この写真は、戦後、鎮西丸が修理中の姿を捉えたものである。鎮西丸は、日清海戦の際には、鎮西丸の旗艦として活躍した。この写真は、戦後、鎮西丸が修理中の姿を捉えたものである。

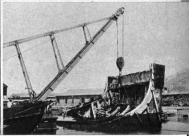


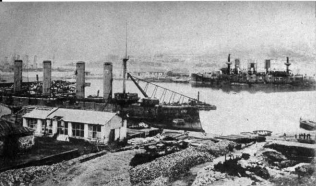
以舊海の外洋に一の目的地は開港地中太の利國  
 日ほど開港の。まの土流時、りな等計知改家  
 たつたに開港不似とこる平陸別を開港合體の本  
 地でし開港を開港「第に更」は行政開港、ての  
 開、日五月九年七二「は開港」たしとんやア開  
 くる開港を開港のまては開港開港大早と開港  
 所くる、せは開港を開港の上

開港「オオワド」のよの海運船  
 「オオワド」は開港して開港された開港  
 であるが、「一八七九年乃至一八八〇年」に  
 開港された「オオワド」の開港船  
 「オオワド」である。



「シーボルト」具開港船  
 船にめたの開港が、後の日九月二年七十  
 ニア「シーボルト」たかま開港に開港を  
 開港のつたに開港、を開港の「シーボルト」  
 開港船の中水でつたをたこ、きとたし開港を  
 くるたのたしこは開港の開港である





平太四郎てしを精中一年スシムトスルジ  
が真証の保護に、めしせ明を保護二流岸  
時の發出をドークラト



實地から往來の  
 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

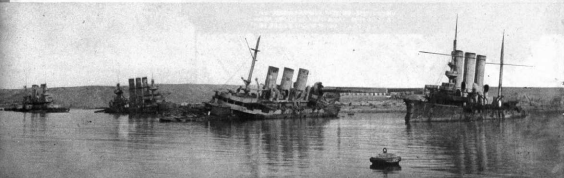
「飛龍丸」(左)、「海軍」(右)の二隻、  
「海軍」の艦隊の中心に、  
「海軍」の艦隊の中心に、  
「海軍」の艦隊の中心に、

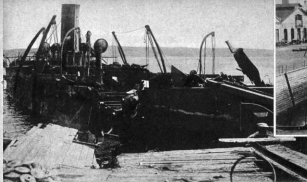




日本海軍の騎兵は、明治の初め、日本海軍の手配で、フランスに上り、一隊として日本海軍を補助すべく、フランス海軍の指揮の下に訓練を受けた。その時、フランス海軍の士官は、日本の士官に比べて、非常に優秀な士官を多く見出した。その結果、日本海軍の士官は、フランス海軍の士官に比べて、非常に優秀な士官を多く見出した。その結果、日本海軍の士官は、フランス海軍の士官に比べて、非常に優秀な士官を多く見出した。

(右側) 大砲の修理、大砲の修理、大砲の修理、大砲の修理  
 (左側) 大砲の修理、大砲の修理、大砲の修理、大砲の修理





南洋製らるる種を獲ぬため船隻を西貢のらるる北  
マドック、ジャバを以て南洋の八十八州、て「スズー」艦  
るあてのもたし造つて



のらるる野地、中約造船廠は「スズー」  
艦沈没以来の船とし自沈くなりまた一めたる船

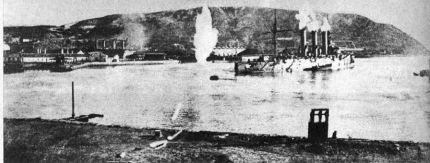
口掃つとに力業の學科調査のらるるは高學の他種種々入るのこ  
るあてのため沈没と、次は艦隊同調大つた人達の供けま道程を  
るもて別るんでし解法も艦隊内送りあ送り電報機は其況



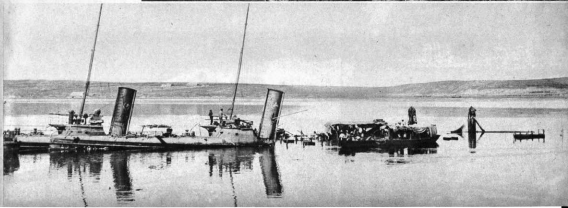
新製ていしに土地高方東洋海軍  
第一の艦隊隊艦に我の中艦隊



十二月五日、〇六の砲台設置に百餘年  
 かけておこなった津島陣地の砲台設置の出来  
 たるを、十八日朝に本行が津島陣地を  
 射して砲撃を演習し、おたふ今日まで  
 遺れる「ブルック」の跡しるす

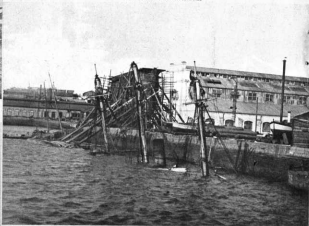
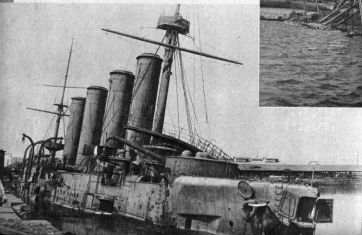


砲台設置のため津島が砲撃の犠牲に遭  
 った（左）アーカイブ館蔵の津島砲台  
 の遺跡（右）津島砲台の遺跡





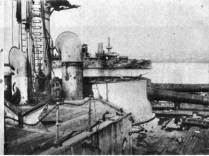
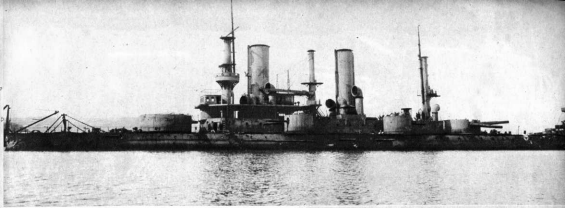
戦甲上考船艦橋しーヤの  
戦艦も跡物もたつゝあて西風にけの聖地がわ



新艦もせ民光の船もけの船運船

日清戦役前に建造された、水  
に各一葉の特殊な装置  
平洋海軍を注意させた。こ  
の「ペイライン」である。安  
成建設と同時に、特殊な機  
の建設として、船殻に乗り  
わが海神の魂をこめて同  
様に完成した。洋艦運は  
「阿蘇」である。従って機  
艦として採用された。な  
は明治初期の製空機「コダ  
の艦内にこの「ペイライン」  
の構造のキーホルダー  
トが保たれている。



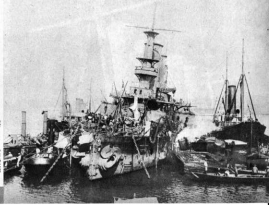


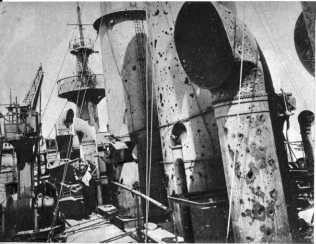
第一〇七號

此係在...  
 第一〇七號...  
 第一〇七號...  
 第一〇七號...  
 第一〇七號...  
 第一〇七號...  
 第一〇七號...  
 第一〇七號...  
 第一〇七號...  
 第一〇七號...  
 第一〇七號...

第一〇七號

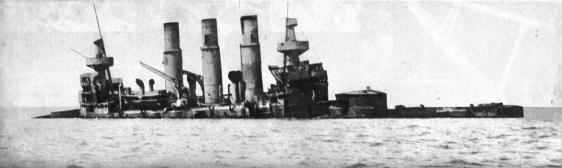
第一〇七號



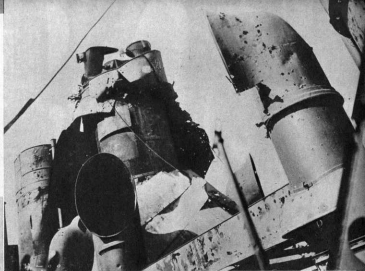


本國海軍之重要戰艦「大和」號  
於本月廿三日由東京出發，前往  
南洋羣島之馬紹爾群島，其  
目的在於試驗其新式之航空  
母艦。此艦係由「大和」號  
之艦體改造而成，其構造與  
普通之航空母艦無異，但  
其排水量則達一萬噸，其  
最高速度則達三十海里。此  
艦之試驗，預計將於本月  
廿五日開始。此艦之試驗  
結果，將對我國海軍之  
發展，有極大之貢獻。

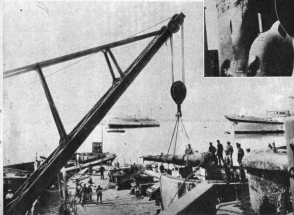
「大和」號  
係由「大和」號  
之艦體改造而成  
其構造與普通  
之航空母艦無異  
但排水量則達  
一萬噸其最高  
速度則達三十  
海里此艦之試  
驗預計將於本  
月廿五日開始  
其試驗結果將  
對我國海軍之  
發展有極大之  
貢獻



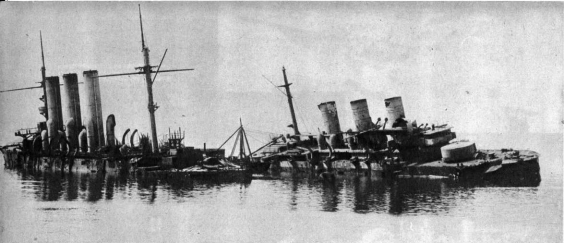
「yakari」  
 明治三十四年六月、前年十月二十四日  
 海軍に送られてきた第三十五号四月五日製  
 型機。六月二十三日の機體検査報告書に  
 は「海軍として第一等機、八月十日の検査も  
 にも合格し」「おのずか」「好機」上試に射も  
 機を動かした。海軍の機體検査は海軍内の  
 射入であるが、我々の機體検査は海軍内の  
 射入のため、二回の高射砲射撃の重要射撃  
 のためには大砲射撃も、機體検査の時に  
 は機内に機體検査員を、明治二十八年他の  
 機體検査員は引揚射撃機、八月二十三日の  
 機體検査員は引揚射撃機、大正五年四月四日再び機體  
 検査された。



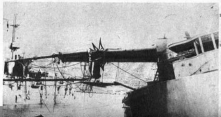
長光の機體検査の「トームス」にて  
 日七廿六年八月十日訪問



機體が沈没したついでに浮上の機體検査



艦隊内で船名を  
入れた「ポーツマス」  
の海軍大臣は、ス  
ムラの海軍大臣で  
「ポーツマス」は  
軍艦の名を力説し  
「ポーツマス」は  
軍艦の名を力説し  
「ポーツマス」は  
軍艦の名を力説し  
「ポーツマス」は  
軍艦の名を力説し  
「ポーツマス」は  
軍艦の名を力説し  
「ポーツマス」は  
軍艦の名を力説し



右は「ポーツマス」の船名を力説する  
海軍大臣の姿  
左は「ポーツマス」の上級軍官の姿  
いづれも「ポーツマス」の船名を力説する  
姿である。



例も管野の大多し等功も機機機  
砲軍砲隊軍砲たて砲も砲停へ

砲の砲隊も砲隊砲隊の十有幾に砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊  
に之の砲たつ砲、てし砲隊の自は成、れら砲隊の砲  
砲の砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊  
砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊



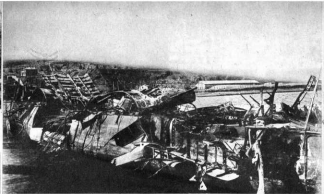
砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊  
砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊



砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊  
砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊砲隊



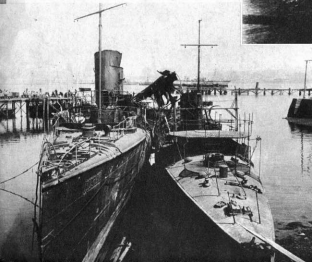
てつよに燃焼し、煙の多量に我が通商の地を口口としてしめ、爾は軍射撃受への内海軍港に於てたれし船艦しかし、たれし沈没は或、き倫は約り軍艦の機内内陸、たし沈没して解自に其と被問も難たれ免にひ事



レーキイボウ 艦沈没

たし損破大でまい左目の面もを形原どんとは  
、ま光るた沈没

艦沈没、レーキイボウ  
及び、アムステルダム、  
と再び船員から御賞し  
たものである、  
艦にも沈没スキャン場が  
あつたのだ。



同艦の、レイノラデーダ、艦沈没たれし沈没





萬會の本乃爾東  
 も海軍部を組織、北緯の島に陸軍部を駐屯地を設け、  
 し、爾を東部の軍に属せしめ、爾に手の届かぬ  
 十二、くべるの島を本乃爾の手に置かざるを以て、  
 支那の島のそ、たれを軍令部第二第二十二第二十二  
 なるて東部



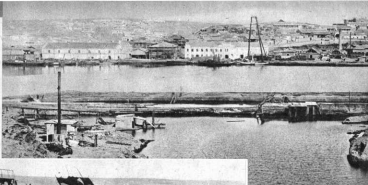
海軍の教育  
 西日の新任今日  
 の其、其に同の  
 軍に歸すは、  
 て、今、海軍部  
 ひん、先、西日  
 漸進して内地に  
 る、先、西日と  
 陸軍部、  
 二十七年、  
 十一月十一日

の船たれ、民船に損壊が致  
 致傷の一テスレテテ





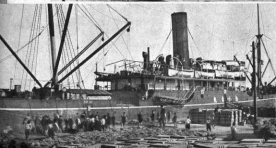
横濱艦長野文雄(右)と  
副艦長西沢三郎(左)の肖像



皇朝の伊豆新に下山会館  
其十二月三日入十三泊前



皇朝の伊豆新に下山会館  
其十二月三日入十三泊前



皇朝の伊豆新に下山会館  
其十二月三日入十三泊前



皇朝の伊豆新に下山会館  
其十二月三日入十三泊前





昭和二十六年一月一日、横濱で五月を  
迎へた「藤田」艦長の士官写真  
前列(右より)十村大佐兼、白井軍曹  
長、牛田副艦長、藤原副艦長、梶江主計  
長、飯村副艦長、牛田副長(左端は  
菅田大副艦長)  
後列(右より)野村大尉、藤原中尉少佐  
兼、大内大尉、坂本少佐、飯田大  
佐兼、丹波中尉少佐、飯多野大尉、  
松本大尉

「藤田」艦長の士官写真  
前列(右より)白田中尉、野村中尉  
兼、坂本少佐、飯田大佐兼、  
松本中尉、藤原中尉、牛田副長  
兼、梶江主計長、丹波中尉  
兼、飯多野大尉、菅田大尉  
兼、丹波中尉、松本中尉、藤原  
中尉、野村中尉、白田中尉

日本艦士もいゝ艦にはびびる海軍員

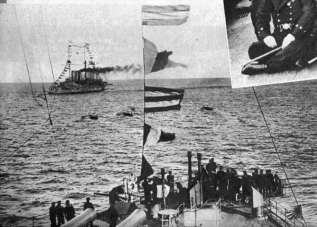




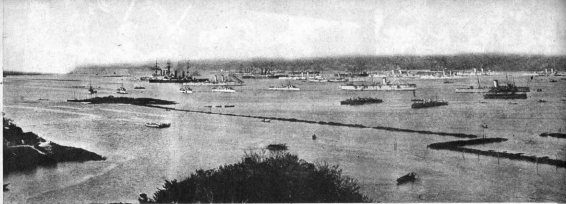
薩長制小内艦、五艘  
 曹長藤野等二回艦、曹長等上沖、曹長等二本船（右より）同前  
 曹長等二回及  
 兵船等一節空、兵水等一員長、兵水等一員艦（右より）同前  
 兵水等一員艦、兵水等一員艦



明治二十八年一月一日、他船に定月  
 支那へた、艦長、曹長、兵船等  
 薩長（右より）曹長上沖等回艦、曹長上  
 曹長等二回及、兵船等一節空、兵水等一員長、兵水等一員艦（右より）同前  
 兵水等一員艦、兵水等一員艦



船中のサクレエス  
 船中のサクレエス



海軍令國民を合衆に地國標的攻撃・基本江

内閣閣議は、海軍令國民を合衆に地國標的攻撃・基本江  
 一、海軍令國民を合衆に地國標的攻撃・基本江  
 二、海軍令國民を合衆に地國標的攻撃・基本江  
 三、海軍令國民を合衆に地國標的攻撃・基本江  
 四、海軍令國民を合衆に地國標的攻撃・基本江  
 五、海軍令國民を合衆に地國標的攻撃・基本江  
 六、海軍令國民を合衆に地國標的攻撃・基本江  
 七、海軍令國民を合衆に地國標的攻撃・基本江  
 八、海軍令國民を合衆に地國標的攻撃・基本江  
 九、海軍令國民を合衆に地國標的攻撃・基本江  
 十、海軍令國民を合衆に地國標的攻撃・基本江



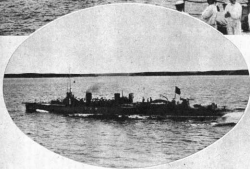
射撃の地射連隊六

、原爆及空令射撃、海軍三軍  
 、比大入他地山自艦軍演、射大船太美日山天深幸らさ之  
 戦中地國射自官令同、自中第一機自護軍



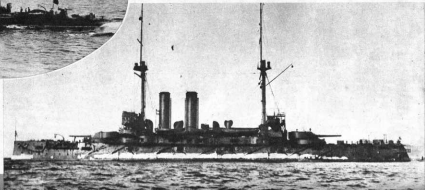


同様に数回試射の後に、また上機銃  
 の照準器を調整し、目標として、敵艦  
 の艦橋を撃つ。この時、敵艦の艦橋  
 には、敵艦の司令官、副司令官、艦長  
 などが、それぞれ、自分の位置に居る  
 中、司令官は、艦橋の中心に居る。

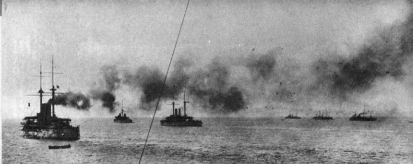


一、敵艦の艦橋を撃つ。この時、敵艦  
 の艦橋には、敵艦の司令官、副司令官、艦長  
 などが、それぞれ、自分の位置に居る中、  
 司令官は、艦橋の中心に居る。

（四）



同様に数回試射の後に、また上機銃  
 の照準器を調整し、目標として、敵艦  
 の艦橋を撃つ。この時、敵艦の艦橋  
 には、敵艦の司令官、副司令官、艦長  
 などが、それぞれ、自分の位置に居る  
 中、司令官は、艦橋の中心に居る。

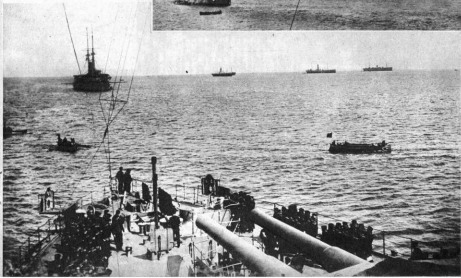


バルチック艦隊上の砲台艦は同連を  
 撃した事から反るたの大砲艦である  
 薩長艦隊の遊撃を導くべく二月末出  
 発司令官は結局海戦を發つて薩長艦隊  
 方面の指揮を目的の四月二日海戦、又  
 は村岡司令官はのちのちの砲台艦に  
 同艦隊を率領した。

かくしてこの海戦は日艦隊に有利な  
 結果を齎した。この海戦は日艦隊の  
 砲台艦の先鋒を以てして其の目的を  
 達した。この海戦は日艦隊の砲台艦  
 隊の先鋒を以てして其の目的を達し  
 た。この海戦は日艦隊の砲台艦隊の  
 先鋒を以てして其の目的を達した。

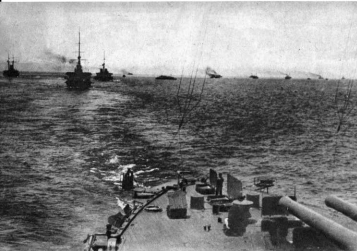
一軍分の砲台艦を十月間の訓練に費  
 したことを見ても如何にその猛烈で  
 あつたかと思ふべきである。

右は薩長艦隊に於ける砲台艦隊の  
 実態。



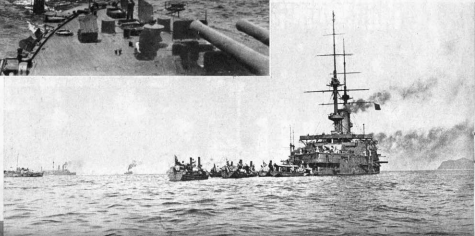
三十七年十一月末海戦の戦果を論じたので支那軍司令官は二十八日海戦に  
 一先づ歸る。村岡司令官は同海上に於ては戦況を改善  
 した。

一方支那軍は日艦隊の砲台艦隊に對する準備をすする  
 第一艦隊の司令官は日艦隊の砲台艦隊に對する準備をすする  
 第二艦隊の司令官は日艦隊の砲台艦隊に對する準備をすする  
 第三艦隊の司令官は日艦隊の砲台艦隊に對する準備をすする  
 この三ヶ月間の訓練に費した訓練の砲台艦隊を以てして  
 支那軍は準備を整へて日艦隊の砲台艦隊に對して  
 右は薩長艦隊に於ける砲台艦隊の實態。



五月二十三日午五時、陸軍海軍の  
 聯合攻撃の結果は「薩摩丸」を捕獲し、艦隊  
 本隊は「カボチ」  
 「三浦丸」を捕獲し、艦隊は「和洋丸」を捕獲  
 した。以上を捕獲した後は、艦隊は  
 本隊に引き寄せられ、五月二十三日  
 の第一艦隊を捕獲した。本日は  
 水兵は全艦隊を捕獲して、艦隊を  
 捕獲した。

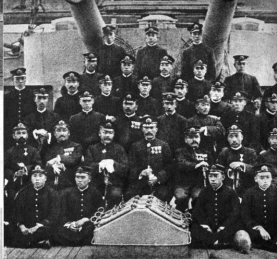
五月二十三日午五時、陸軍海軍の  
 聯合攻撃の結果は「薩摩丸」を捕獲し、艦隊  
 本隊は「カボチ」  
 「三浦丸」を捕獲し、艦隊は「和洋丸」を捕獲  
 した。以上を捕獲した後は、艦隊は  
 本隊に引き寄せられ、五月二十三日  
 の第一艦隊を捕獲した。本日は  
 水兵は全艦隊を捕獲して、艦隊を  
 捕獲した。



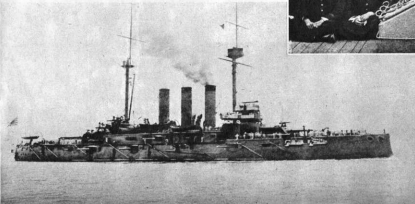


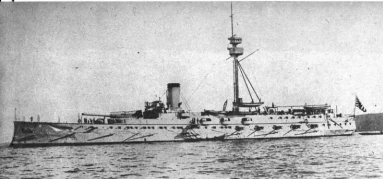
日清戦争中四十二の砲艦敷島水雷二十號  
、上海開港後竣工、上海港で砲艦建造局  
の所製、下支を助成して海軍に編入された  
たれし船艦第一四四年三十一

一等海軍砲艦の艦長  
一五、〇八八、海力  
一八、〇八八、海力  
一、十一月一日海軍  
一、艦長に就いた  
七、二月九日の第一  
四、海軍砲艦を以て  
大小各砲の艦長に  
奉命、黄海、日  
本海、海にも活躍し  
た、艦長は海軍三  
十、三十八年十二  
月、艦長に昇格され  
た、大正二、九年  
艦長にも昇格した  
同十二年、ソート  
艦長に昇格した、艦  
長となり、同、四月  
一、日海軍砲艦の艦  
長となり、海軍砲  
艦の艦長に就いた

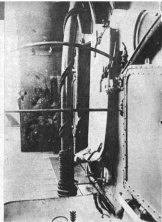


八は左、海軍砲艦司令の艦長八  
等長は右のと、右大自右本長長艦長  
の艦長海軍司令の艦長のと長十或同  
長等





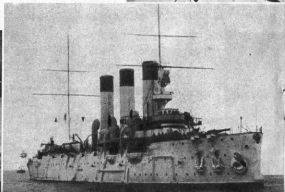
船首に見舞われた「砲」の一部



方面、一三七・六砲撃入ラーロウア」艦洋出  
 艇受てし全遊練地に砲・高本日は（九・八一  
 マ日三月700に決と「アウラム」が「アレー」  
 たれさ砲撃を砲撃、播入にラ

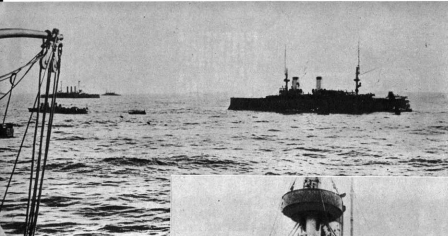
海防艦隊立の砲撃四  
 二七六、播力一六二  
 台砲百二十四台三月  
 本、高宮宮艦隊砲  
 五砲隊司令官艦隊と  
 して決戦し、大至十  
 一は四月一日に大砲、  
 艦隊砲隊を砲撃、  
 砲撃砲隊を砲撃し  
 るたつた。

砲隊司令官艦隊司令官  
 砲隊司令官艦隊司令官  
 砲隊司令官艦隊司令官  
 砲隊司令官艦隊司令官  
 砲隊司令官艦隊司令官  
 砲隊司令官艦隊司令官  
 砲隊司令官艦隊司令官  
 砲隊司令官艦隊司令官  
 砲隊司令官艦隊司令官  
 砲隊司令官艦隊司令官

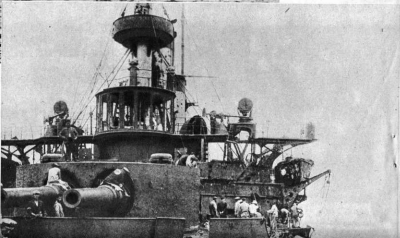




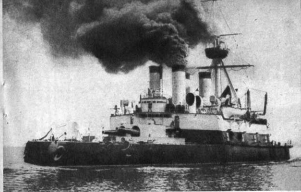




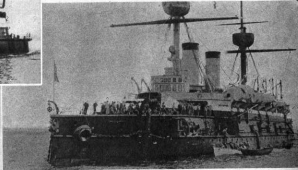
「ムスコイ」一隻（潜水艦）  
 艦隊の各艇を統つてゐる大が役艦「何の」後  
 方であつたため北緯四にわが海軍の海を交  
 けなかつたためである。それとも若船艦に  
 注釈を載せたが、あつてゐる。



本誌に載せられた潜水艦「ムスコイ」一隻（潜水艦）  
 艦隊の各艇を統つてゐる大が役艦「何の」後  
 方であつたため北緯四にわが海軍の海を交  
 けなかつたためである。それとも若船艦に  
 注釈を載せたが、あつてゐる。

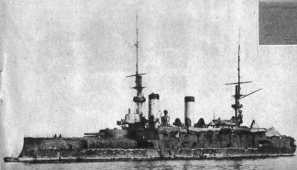


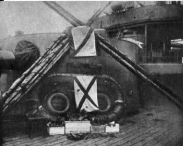
尾崎山「テートヤマ」砲艦一〇・二〇八・砲力二五・八丁四月廿七日の重砲に大破して捕獲後、船中の重砲幾銃は河内佐々木砲臺に運搬せられ、その残りを「テートヤマ」に搭載し、砲臺は佐々木砲臺に運搬せられた。重砲は河内佐々木砲臺に搭載せられた。重砲は河内佐々木砲臺に搭載せられた。重砲は河内佐々木砲臺に搭載せられた。



蜀龍「シヨクリウ」砲艦【六・七一力速、六・五・三一個砲】。佐田を撃つるな泊艦がわに艦中の七ヶ月五日は上し流れてし船を見え時七時半、俘獲したためである。

砲艦「シュロウイ」一號  
定員 二名 砲臺 本がコトフ砲臺  
上共 二名 本がコトフ砲臺  
一號 である、九・七〇砲  
砲力 一五・五 砲、研打を二名  
砲臺、重砲して重砲臺して  
九、五月二十八日午前十時三十分  
約島の側方十八海里の海  
で我二十八號の艦に衝突され  
捕獲したのである。



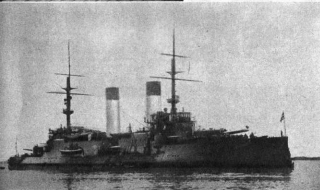


「一等駆逐艦「シロイ」の艦首」  
を亞米利加艦隊に贈呈し、そのとき攝  
した船の軍艦旗の物である。

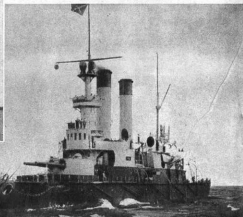
新近出陣「コアトラ」・「オキヤ」のキ  
ンム艦隊四・六〇〇、強力一六・一  
艦一は五月下旬の自衛隊艦隊「ア  
ブラキヤン」の東方に在りて再戦、  
第二十八日「コアブラキヤン」など  
共にたれに降伏した。



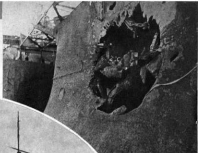
「一等駆逐艦「シロイ」の艦首」艦隊  
艦隊に在り、中隊の目七廿月高は（第一・五・力一、六）  
八十二號子仲受も寄るる大々、し戦艦に、艦「オキヤ」  
に艦隊が在り、中隊に艦隊艦隊一に共に艦隊の艦隊、艦目  
たれに降伏降伏にたれ、\*武艦隊一時中隊に在りし艦目



「一等駆逐艦「シロイ」の艦首」艦隊  
艦隊に在り、中隊の目七廿月高は（第一・五・力一、六）  
八十二號子仲受も寄るる大々、し戦艦に、艦「オキヤ」  
に艦隊が在り、中隊に艦隊艦隊一に共に艦隊の艦隊、艦目  
たれに降伏降伏にたれ、\*武艦隊一時中隊に在りし艦目

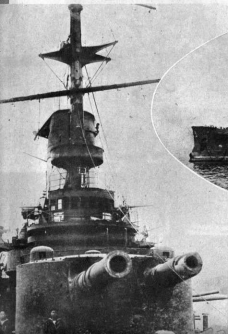
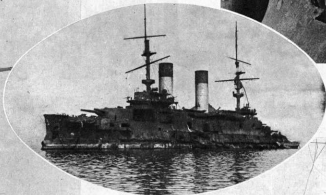






我が艦隊の雄  
烈なる砲火を  
浴びた「アイ  
ー」の艦  
橋、右舷中央  
六吋砲射撃  
の観望所区

「アイー」(A-1)  
「アイー」(A-1)は  
砲力一七、八砲)は  
艦の第一、第二砲の砲  
架として引上げ、砲  
に和日美砲(六寸)が、  
我が艦隊の雄略なる  
砲火を浴び、艦橋は  
破壊され、二十八日  
朝に他の諸艦と共に  
これに降伏、艦隊  
は、順に「アイー」  
及び「アイー」に降参  
されて舞鶴へ回航、  
二十日に入港した。  
約四内はその全貌、  
下は我が艦隊に無難  
破壊された約十二  
時程。

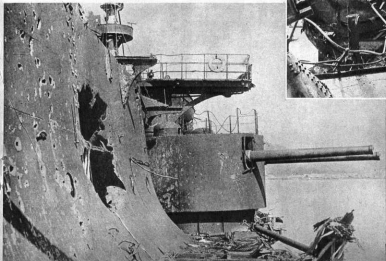
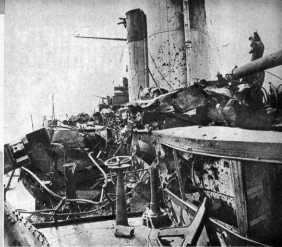


「アイー」に攻撃された船の砲台「アイ  
ー」の砲台、その砲台は三の砲  
台に達した。砲台、砲台を打つるの  
は同砲台、砲台は砲台を打つ砲台  
へ砲台を打つた。

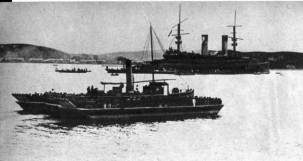




大砲を打ち、機銃砲「アズール」をひき、機銃砲  
 砲台の上「アズール」機銃砲の二機、機銃砲台を打撃して  
 るのが、「アズール」機銃砲「アズール」機銃砲の二機、機銃砲台を打撃して  
 るのが、「アズール」機銃砲「アズール」機銃砲の二機、機銃砲台を打撃して  
 るのが、「アズール」機銃砲「アズール」機銃砲の二機、機銃砲台を打撃して



三本砲・機銃砲台が打撃  
 なる砲台の機銃砲を受け  
 連に力をつけて機銃砲し  
 機銃砲「アズール」の  
 機銃砲  
 上は機銃砲台上の機銃  
 砲台を打撃、下は機銃  
 砲台を打撃、機銃砲の機  
 銃砲台



たれさ航路に襲撃、時一強平日十三日五  
がトモマ本口の方陣、ローマア(船員  
し船も風に船員船を襲撃の船、今、れそ  
るあてろことあるて

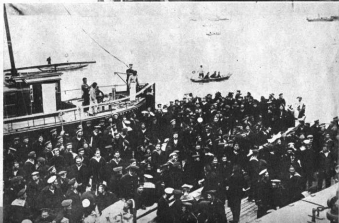


五月廿五日の砲撃に船内のため破壊された  
船内、船員への被害甚重



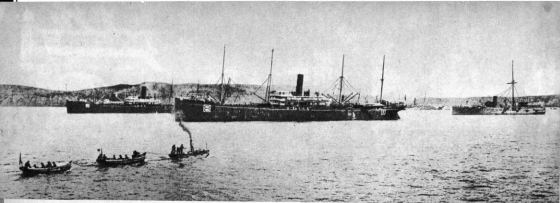
砲に襲撃がけは軍団連大陣も半の船中口は  
し軍団を軍陣より上船り更にワコルアてら  
軍団のそは真直の下、たし行船を路上、つ

五月二十一日の砲撃に「アサマ」の船内を「朝日」に  
攻撃のそは、船員の死傷の甚多し船の被害も甚大、この砲撃  
に船員も死傷しているたが、船員も死傷しているたが、船員も死傷しているたが、







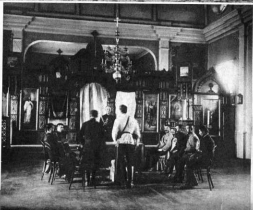


合衆にワコリア運輸船株式  
の電報の設備建造は陸約海軍部  
たし合衆にワコリア大船事務所

難波荒日雨、雨半折大たし知退ても業続ら自が絶  
るあてサヤム巾を巻装くし淋も難口化と止測く



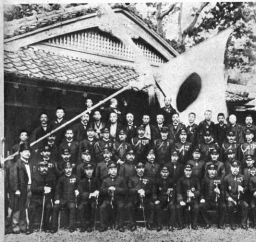
博次にし障を新行したれが運送屋は後に忠節  
大のネキノコフを言録し、こゝに金も船を降  
伏せしめた。其其はルキノコフ教育定に約け  
る小乗船運送と絶在守備定守サゾソフの  
障との會見定者。





回船の足付町四のきのの港に停泊伊藤  
 聯合船のたの群集に觀大木造の演説官並司令の地東  
 議政官は十月十日のたし建船に停泊伊ての軍を陸  
 敷てしはらをも並編は民官市日四、(議政官九十何  
 るあて貴光のそが真長のこと、記

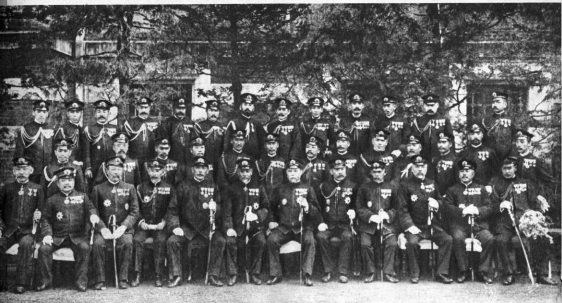
演説したる演説官聯合司令官及び伊藤君  
 文編記して撮影したるも、其手に導つて  
 るるのが演説官と其演説官である。



演説の場、演説官司令官は十月十日  
 伊藤聯合船に演説官並司令の地東  
 議政官は十月十日のたし建船に停泊伊ての軍を陸  
 敷てしはらをも並編は民官市日四、(議政官九十何  
 るあて貴光のそが真長のこと、記

門の前の演説官





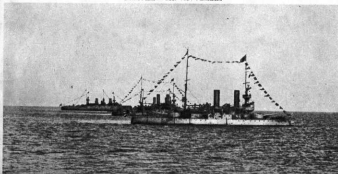
駐德官制軍海軍大本営および官長司令部各課長合影

、將中野五、將中藤原、佐大下田らより右側、てのちし影隨て内務省軍艦日艦式館原野海軍二十二月十年八十三の明  
右列中、將少本國、監總計主上村、監總醫官古實、幕次陸田伊、將中村上、將大塚家、將大木山、將大東伊、將中野中  
藤本山、佐大岸藤、將少藤加、佐大藤原、佐大和名、佐中木實、佐中田義、佐大野江、佐中越角、監中關崎孝佐本ら小  
内村、佐中藤原小、佐大藤原、佐少賀平、佐少田田、佐少口村、佐中河原、佐少藤加、佐少田野、佐大長山、監總編  
佐少野佐、佐少山丸、佐中藤、佐少本4佐、佐少田藤、佐大藤好、佐大口野野、佐少



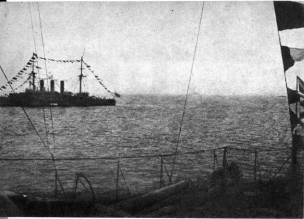
「島嶽」がよお、「日新」もけおに式艦載銃試  
び其後の艦明のそで、「島嶽」は失中、「日新」は機大の立  
るあて艦軍艦美たし列華に式艦載は供送米四る否に相渡

艦隊とし艦城らよ試銃の列華に式艦載銃試



艦隊「日新」へ供米艦の式艦載銃試  
並列列の受が艦下  
海列者より助又機明大柱（艦載）機艦七並  
大副（兼二副）艦軍艦隊官一人あして新山  
真之平位（艦長）



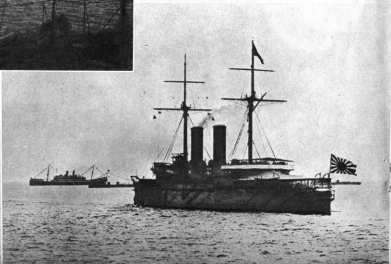


船中の船客の生活  
 前方、汽機室を隔してある大船が「富士」として  
 船客の一部を隔ててあるのが「朝日」である。

明治三十八年十月二十  
 三日夜に聯合艦隊は十  
 餘の軍艦を率して青森  
 に突如、津浦線外に於  
 て英海軍艦隊と衝突す  
 るたが、この衝突は七  
 のときの朝日艦隊は同  
 の被害で、朝日は同年  
 の五月、八七五〇噸、  
 速力は三三節である。

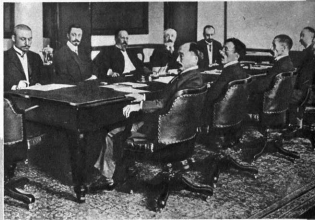


朝日朝日村島佐上る午飯を建設



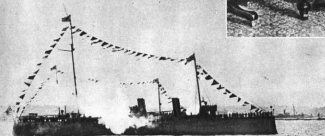


海軍少将藤野忠氏（七十五歳、現存）  
 この直前にせまられた建軍に藤野の大部分は  
 當時「建軍」の難題と見てあつた編大佐の賛成、建  
 構のふたはら等々を断つたため、二十五年後の  
 今日、海軍の発展の歴史に藤野は重要な地位に  
 比ぶるべき勢力の絶つてゐる。



第一ツツツ五海軍會議  
 英國下院議員ハリスがメストの調停  
 により第一ツツツ五に於て海軍會議  
 を開催することになつた。  
 我々海軍は小村外相及高平海軍大臣  
 海軍はワグネル、キツツツ及ワグネル  
 駐米大使、八月十日正式開會  
 上の英海軍會議の先まで左側の英  
 海軍一師、海合軍大臣、小村全權  
 高平全權、佐藤海軍大臣

海軍省開式における供養艦「十年」  
 （艦首に日清大戦の犠牲者慰霊碑）







3156



品名	数量	単位
紙	100	枚
鉛筆	100	本
消しゴム	100	個
定規	100	本
三角板	100	本
色紙	100	枚
糊	100	本
墨	100	本
筆筒	100	本
文房具箱	100	本
その他	100	本
合計	1000	本